

協つ事成ふ旨の外は、
 各地の城、百十部を討捕く、
 家より浪卒は、諸國行脚の
 將に逢ふ奉らず、
 家とて、
 溢るる、
 のは守、
 能く、
 けられざるは、

といはれ而も其の兎角の所會釋もなかりけるよし叫をね
 て申様箇様、軍を初よりゆく人民の痛、軍卒の疲
 をなせぬるありて、若し依はにせんが計策を以て
 諸士は手ご留め申趣は御家老の面とて示合せしむ
 便とて、是方再應申けしは、義を公殊の外は機嫌
 宜しく始終の思惟は早く過ぎぬが肝要ぞうゝとして
 内應しつらせぬなりけり

義守公病氣云安方中將之事